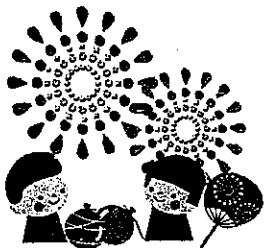
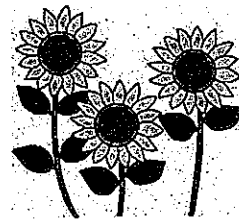


小島地区ふれあいセンターだより



令和7年8月 第422号 運営委員会発行

愛宕3丁目10-2 電話826-7703



8月の行事予定

※毎週月曜日は休所日です。

開催日	行事名	
1日(金)	子育て教室	午前10時～11時30分
5日(火)	小島地区ふれあいセンター運営委員会	午前10時～11時
6日(水)	すこやか運動教室(生涯元気事業)	午前10時～12時
10日(日)	小島愛宕地区老人連合会定例会議	午前10時～11時
20日(水)	すこやか運動教室(生涯元気事業)	午前10時～12時
23日(土)	小島地区民生委員児童委員協議会定例会	午前10時30分～12時

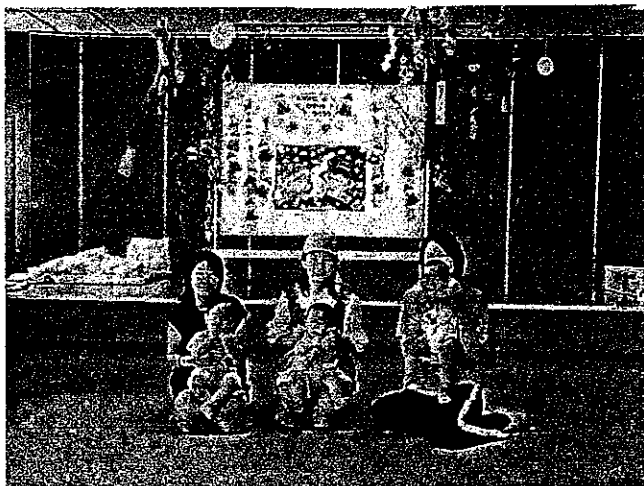
小島地区「子育て教室」の七夕飾りづくり

7月4日(金)に、長崎市子育てサポート課、小島地区民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会小島支部・上小島支部・愛宕支部の主催による小島地区「子育て教室」が開催されました。

この日の取り組みは、「七夕まつり☆願いをこめて☆」でした。

子供達は、お母さんに手伝ってもらい、七夕の笹飾りの短冊に「家族みんなが、元気に、楽しく過ごせますように」「仲良く過ごせますように」「家族旅行に行きたいな」「笑顔ニコニコ、楽しく過ごせますように」などの願い事を書いて飾り、楽しいひと時を過ごしました。

出来上がった七夕飾りは「小島地区ふれあいセンター」1階ロビーに飾りました。



江戸町から立山役所まで⑤

○中央公園(トイレがあります)

ここにはC57型のSLが展示されていました。(昭和14年製造)。昭和12年から23年まで長崎・東京間の特急ふじ、さくら、さちかぜ、を牽引した汽車で、現在は長崎駅前に移転展示されています。現在、中央公園は、「長崎くんち」の会場や「ランタンフェスティバル」の会場としても活用されています。

○小倉藩蔵屋敷跡

バス道を超え長崎腎病院下に出ます。

秀吉の時代は初代(文禄元年1592)長崎代官 村山等安宅でした。彼は元和2年(1616)キリシタンであることを訴えられ、江戸で処刑されました。江戸時代は小倉藩の出先機関で蔵屋敷が置かれ、奉行との連絡、他藩との情報収集に当りました。明治時代には長崎県師範学校、新町尋常小学校が設けられました。その後、新町小学校と興善小学校が合併し新興善小学校となりました。(昭和9年1934)

○萩(長州)藩蔵屋敷跡

萩蔵屋敷は、天明年間(1781~1789)の頃、本五島町から、この地に移転しました。慶応元年(1865)に岩原目付け屋敷内の英語伝習所が済美館として移転されました。

○新町活版所 本木昌造は明治元年(1868)に開港した新町私塾に併設する施設として、明治2年(1869)新町活版所を開設しました。★幕末モニメント「近代活版と本木昌造」

○蔵流坂 小倉藩蔵屋敷と萩藩蔵屋敷との間の坂は、関門海峡の蔵流島になぞらえ、蔵流坂と呼ばれます。

○安豊稲荷神社 神殿の前面に「遠山左衛門尉景晋」の名が入った水鉢があります。江戸町奉行の名奉行・遠山様の父親は長崎奉行です。

○報時所跡 バス通りを渡ります。元市議会寄り、囃き坂側に報時所がありました。報時所は寛文5年(1666)、現NTT付近に設置。延宝元年、崇福寺通りに移転。明和3年(1766)豊後町(桜町)に移転。以後、長崎の唯一の報時所とされ「鐘の辻」と呼んでいました。明治7年に鐘楼を改築。明治36年(1903)に「どんの山」に長崎測候所が作られ正午の合図に空砲(ドン)を撃つようになり鐘楼は廃止。このドンも昭和16年に廃止されました。

江戸町から立山役所まで⑥

★長崎市役所の沿革

○長崎区役所 明治11年(1878)勝山小学校内に「長崎区役所」開庁

・初代区長に家永恭種が任命される。区会を設置。

・明治15年(1882)磨屋町の薬師寺自庵に移転。

・明治17年(1884)桜町に長崎区役所、戸長事務取扱所及び議事堂が完成。

○長崎市役所 明治22年(1889)長崎区が市制を施行し長崎市となる。(4月1日)

・面積7km²、戸数9,230戸、人口5,502人。

・天皇の裁可を受け、初代市長に北原雅長が就任。

・旧長崎区役所庁舎(桜町)を継承し、長崎市役所が開庁。6課8係、53名の職員で発足。・大正3年(1914)鉄筋コンクリート造2階建て新築庁舎完成。設計山田七五郎。

・昭和13年(1938)合併により「西浦上」「小ヶ倉」「土井首」「小櫛」に支所を設置。

・昭和30年(1955)合併により「福田」「深堀」「(1月)」「日見」「(2月)」に支所を設置。

・昭和33年(1958)市議会事務局付近から出火、市役所の2階の大半を焼失。出火原因は議長室ストーブの残り火が絨毯に燃え移ったものと断定された。

・昭和34年(1959)新庁舎(令和4年まで現役分)完成。開庁。

・昭和37年(1962)合併により「茂木」「式見」「(1月)支所を設置。

・昭和38年(1963)合併により「東長崎」「(4月)支所を設置。

・昭和48年(1973)合併により「三重」「(3月)支所を設置。

・平成17年(2005)合併により旧6町(香焼・伊王島・高島・野母崎・外海・三和)に、それぞれ行政センターを設置。

・平成18年(2006)合併により旧1町(琴海)に行政センターを設置。

・平成29年(2017)10月支所及び行政センターを「地域センター」改称。改編。長崎市役所本館1階に「中央地域センター」が、市内四ヶ所(市役所別館・東長崎・三和・琴海)に土木・保健・生活保護などを担当する「総合事務所」を設置。

・令和5年(2023)1月4日 長崎市魚の町に市役所新庁舎が開庁。

七番歌(安倍仲麿)

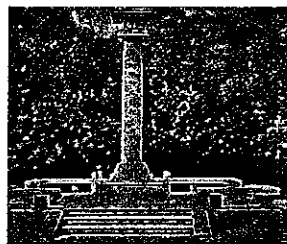
天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも

〔語訳〕

天を仰いで見ると美しい月が昇っている。あの月は遠い昔、遣唐使に出かけ時に祈りを捧げた春日大社のある三笠山に昇っているのと同じ月なのだ。ようやく日本へ帰るのだな。

〔留意点〕

唐において望郷の思いがつのり、30年を経て帰国を許され、明州(現在の寧波)で送別の宴が催された時に詠まれたのが、この歌である。帰国の船出であったが、残念ながら船は難破し、結局戻った中国で暮らし、72歳で生涯を閉じた。仲麿が逝去した時は中国の大詩人・李白も悲しみ「晁卿衡(仲麿)を哭す」という詩を作った。



1979年、西安の興慶宮公園に安倍仲麿の記念碑が建立された。



八番歌(喜撰法師)

わが庵は都のたつみしかぞすむ世をうち山と人はいうなり

〔語訳〕

私の庵は都の東南にあつて、このように平穩に暮らしているのに、しかし世の人は、世を憂いて逃れ住んでいる宇治(憂し)山だと言っているようだ。

〔留意点〕

・「しかぞすむ」：しか(然)は、このように(こころ静かに)の意味。一般には山奥なので鹿にかけたといわれている。

・「世をうち山と」：「うち」は「宇治」と「憂し」の掛詞となっている。いまひとつは、「うじ」は「氏」と解釈される。公地公民制により新興地主たちに「氏」が与えられた。

・「氏」とすると、歌の後半は、世の中のすべての人が「氏」をもらい、人々が生き生きとした集団(山)となつていくことは、とても素晴らしいことではないか、とされる。

・9世紀の世の中で、「氏」を与えられた、そのような社会の実現は、人が人として生きる社会ができたことを喜ぶ喜撰法師の姿が見えてくる。





〈新着図書のご案内〉

	書 籍 名	著 者 名	出 版 社
一 般 図 書	雪のこし屋橋	長谷川 卓	祥伝社
	鳶	長谷川 卓	祥伝社
	江戸のいぶき	藤原 緋沙子	光文社
	お助け屋台	倉坂 鬼一郎	二見書房
	祝い難	倉坂 鬼一郎	二見書房
	宿場だより	倉坂 鬼一郎	二見書房
	味の道	倉坂 鬼一郎	二見書房
	勝負めし	倉坂 鬼一郎	二見書房
	ねこ浄土	倉坂 鬼一郎	二見書房
	越中なさけ節	倉坂 鬼一郎	二見書房
	戻り舟同心逢魔刻(おうまがとき)	長谷川 卓	祥伝社
	潮騒はるか	葉室 麟	幻冬舎
	わかれ	細谷 正充	朝日新聞出版
	凶手	芝村 涼也	双葉社
	冬の霧	藤原 緋沙子	新潮社
	恋するこ	和田 はつ子	角川春樹事務所
	大奥づとめ	永井 紗耶子	新潮社
	草々不一	朝井 まかて	講談社
	野良犬	藤井 邦夫	文藝春秋
	「ピカドン」と呼ばれて	三浦 義行	講談社エディトリアル
	働くわたしの仕事地図	小林 佳代子	ダイヤモンド社
	貸本屋おせん	高瀬 乃一	文藝春秋
	寂聴さんと生きた10年	瀬尾 まなほ	光文社
	フライパンで卓ドンごはん	橋本 彩	KADOKAWA
	オカルト武将・細川政元	古野 貢	朝日新聞出版
児 童 図 書	にゅーつでたよでたよ	長 新太	絵本塾出版
	こらしめじぞう 3	村上 しいこ	静山社
	じいちゃんの山小屋	佐和 みずえ	小峰書店
	おおなわ跳びません	赤羽 じゅんこ	静山社
	こうして、ともにいきている	多屋 光孫	汐文社